AI

哺乳子牛と搾乳牛のトレーサビリティの高度化

東京理科大学、鹿児島大学、㈱電通国際情報サービス
研究代表：西山　裕之　Hiroyuki NISHIYAMA（東京理科大学　理工学部　経営工学科　教授）

日本中央競馬会畜産振興事業の支援により実施中

研究の概要

研究実施期間:平成30～32年度（3年間）

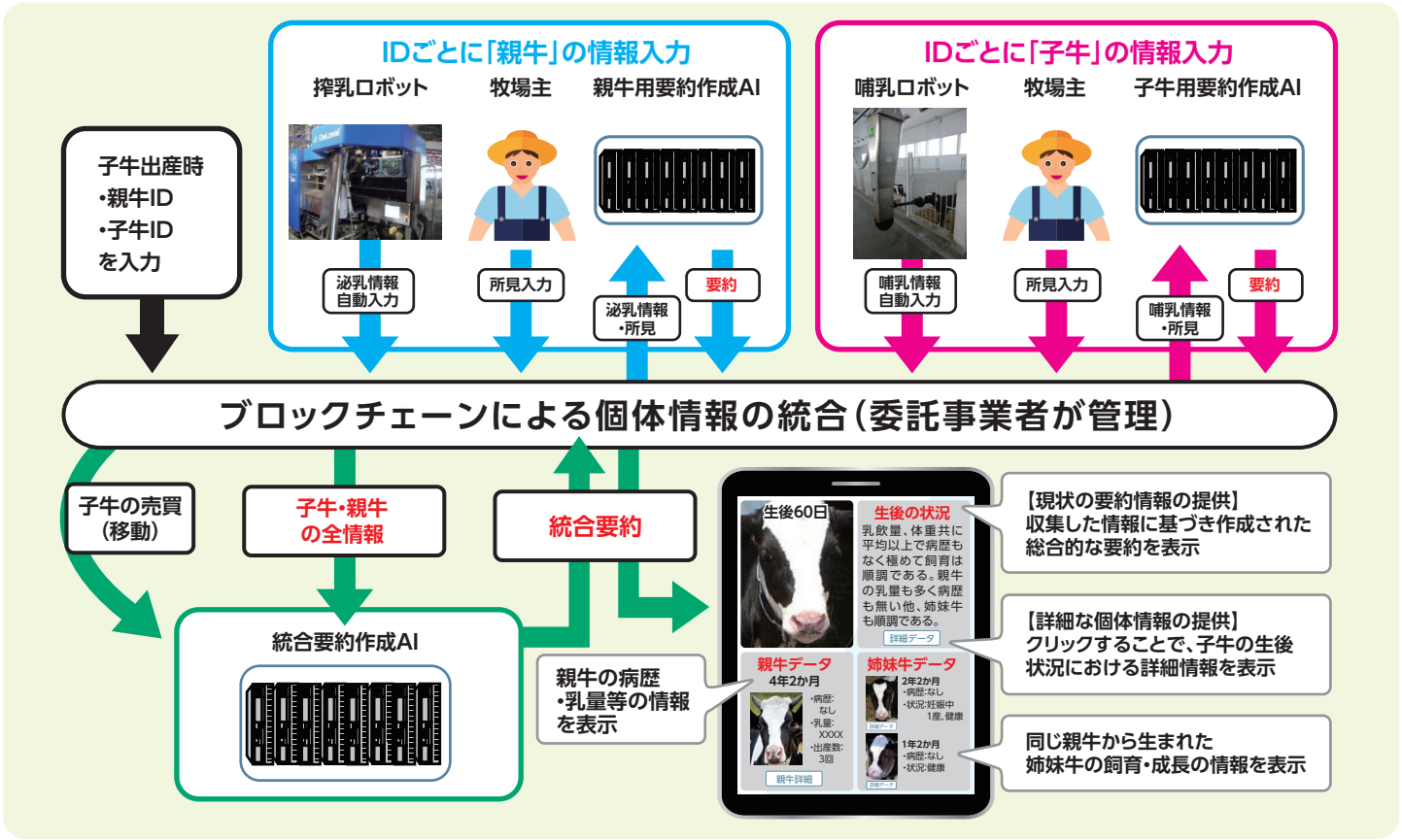
背景
- 酪農家戸数、飼養頭数の減少
- 平均産次数も低下傾向

➡生産性が高く健康な牛の導入が望まれている

現状
- 購入時点の発育状況や血統の情報で購入決定
  - 哺乳時期の履歴情報の把握は困難
  - 仮に情報があっても信頼性は担保されず

ユーザーによる情報の共有と相互監視によりデータの改ざんができない分散型ネットワーク
「ブロックチェーン」技術を使い、信頼性ある個体情報を提供!

運用イメージ



改ざん不可能な乳牛の情報管理
→ ・乳牛の履歴の明確化 ・将来の生産性の予見
→ 生産性の高い乳用牛の流通

東京理科大学 産学連携機構
〒162-8601　東京都新宿区神楽坂一丁目3番地　TEL:03-5228-7440　E-MAIL:ura@admin.tus.ac.jp

2022.04